

# 田無神社 龍神池 調査・管理報告書

活動日	2020年8月5日	天候	晴れ	活動時間	9:30～11:30
作業者	久保田 潤一、舟木 匡志			報告者	舟木 匡志
目的	生物調査 および ビオトープ管理				
内容					
<p><b>【作業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・龍神池の写真撮影</li><li>・生物調査</li><li>・外来種の駆除</li><li>・藻の除去</li><li>・伸びすぎた植物(ヒルムシロ属の一種、ミゾソバ、周辺低木)の整理</li><li>・ケヤキ、イチヨウの実生を除去</li><li>・サカマキガイ120個体を除去(流れ出し部分の岩面に多く確認された)</li></ul> <p><b>【生物調査の詳細】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビオトープ創出時に導入した生物も含め、生息・生育状況の調査を実施した。</li><li>・複数のミナミメダカ成魚を複数個体確認し、繁殖した稚魚も多数確認した。</li><li>・クロスジギンヤンマの幼虫を1個体確認した。今年卵から産まれた個体だと思われる。本種は小型の昆虫や魚類を捕食する肉食性のため、今後も継続的に幼虫の増加に伴うミナミメダカの個体数減少に注視していく必要がある。</li><li>・オオシオカラトンボ(成虫)を確認した。羽化殻も3個体確認され、ビオトープ内で繁殖していることがわかった。</li><li>・コセアカアメンボ幼虫を多数確認した。本種は樹林に囲まれた開放的な水面を好み、地上の湿潤な環境で産卵する種である。神社周辺が樹林に囲まれ、ビオトープ内にエコトーンが多く形成されていることから繁殖に適した環境になっていると考えられる。</li><li>・ヒルムシロ属の一種が水面を広く覆っていた。春季調査で見られた花は終わっていた。</li><li>・トウキョウダルマガエルの成体を少なくとも2個体確認した。雌個体と思われる頭胴長70mmを越える大きな個体が確認できた。</li><li>・地上部の中心部分ではミゾソバが多く繁茂していた。</li><li>・シャジクモを浅場で多数確認した。</li><li>・コムラサキ、ヤブランがつぼみをつけていた。</li></ul> <p><b>【ビオトープの管理作業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伸びすぎた植物の剪定を行い、見栄えを整えた。</li><li>・水中に広く発生していた藻を除去した。</li><li>・広がりすぎたミゾソバをトリミングした。</li><li>・繁茂したヒルムシロ属の一種の一部を除去した。</li><li>・増殖していたサカマキガイ120個体を駆除した。</li></ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ヒメクロイラガの幼虫を複数確認した。ビオトープ上部のケヤキで発生していると思われる。幼虫には毒針があり、触ると激痛がはしり危険。</li><li>・サカマキガイが増殖しているため、調査時に継続駆除することが望ましい。</li><li>・植栽されたコムラサキの枝が乱れてきているため、見ごろが終わった冬期に剪定する。</li></ul>					



No. 1

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査前の様子



No. 2

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査中の様子。



No. 3

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査後の様子。

	<p>No. 4</p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物調査の様子。</li> </ul>
	<p>No. 5</p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トウキョウダルマガエルの成体を少なくとも2個体確認した。ビオトープ整備時に導入した個体と思われる。</li> </ul>
	<p>No. 6</p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オオシオカラトンボの羽化殻を複数確認した。ビオトープで繁殖していることがわかった。</li> </ul>

	<p>No. <u>7</u></p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・クロイトンボの成虫を確認した。</p>
	<p>No. <u>8</u></p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・オオシオカラトンボの成虫を確認した。</p>
	<p>No. <u>9</u></p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・ミナミメダカの成魚、稚魚を多数確認した。春季調査で確認した仔魚も無事成長していることが確認できた。</p>



No. 10

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・浅場でシャジクモを多数確認した。



No. 11

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・流れ出し部分の岩面で外来種サカマキガイを多数確認した。120個体を駆除した。



No. 12

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・植栽されているコムラサキがつぼみをつけ、一部花を咲かせていた。

	<p>No. 13</p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <p>・アブラゼミの羽化殻をビオトープ周辺の低木で確認した。周囲では、アブラゼミやミンミンゼミの鳴き声を確認した。</p>
	<p>No. 14</p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <p>・ヒメクロイラガの幼虫を確認した。ビオトープ上部のケヤキで発生していると思われる。幼虫には毒針があり、触ると激痛がはしり危険。</p>
	<p>No. 15</p> <p>撮影日: 2020年8月5日</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p> <p>・発生していた藻類の除去前</p>



No. 16

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・発生していた藻類の除去後



No. 17

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・水面を覆っていたヒルムシロ属の一種の間引き作業前



No. 18

撮影日: 2020年8月5日

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・水面を覆っていたヒルムシロ属の一種の間引き作業後  
・観察し難かったミナミメダカが見えるようになった。

田無神社 龍神池 確認生物リスト

分類	種名	レア度 ※別表1	経緯 ※別表2	希少性 ※別表3		外来種	備考	確認記録 ※注		
				環境省	東京都 北多摩			2019年度	2020/ 5/31	2020/ 8/5
両生類	トウキョウダルマガエル	SR	導入	NT	EN		ミゾソバの密集する付近で成体を確認	○	○	○
	ヤマアカガエル	SR	放流		EN		池内で多数の幼生を確認。上陸した個体も5個体確認		○	
	ニホンアマガエル	SR	導入		VU			○		
魚類	ミナミメダカ	SR	導入	VU	CR+EN		稚魚を多数確認	○	○	○
貝類	ヒメタニシ	A	導入					○	○	○
	イシマキガイ	A	非意図的導入					○		
	サカマキガイ	外	非意図的導入			○	繁殖を確認	○	○	○
昆虫類	コセアカアメンボ	A	自然飛来				幼虫・成虫を確認	○	○	○
	ヒメアメンボ	A	自然飛来						○	
	ホルバートケシカタビロアメンボ	A	自然飛来				幼虫・成虫を多数確認		○	○
	シロジュウシホシテントウ	B	自然飛来						○	
	ナミテントウ	B	自然飛来						○	
	マメコガネ	B	自然飛来						○	
	ニホンミツバチ	A	自然飛来					○	○	○
	クロスジギンヤンマ	A	自然飛来				ヤゴを確認	○	○	○
	ハグロトンボ	A	非意図的導入					○		
	クロイトトンボ	A	自然飛来				成虫を確認	○	○	○
	オオシオカラトンボ	A	自然飛来				成虫を確認	○		○
	シオカラトンボ	A	自然飛来				成虫を確認		○	○
	ホソヒラタアブ	B	自然飛来						○	○
	コカゲロウ属の1種	B	自然飛来				流れ出しの部分に羽化殻を確認		○	○
	ユスリカ科の1種	B	自然飛来						○	
	ヒトスジシマカ	B	自然飛来				成虫を確認	○	○	○
その他動物	ウマビル	B	非意図的導入						○	
植物	タマガヤツリ	A	導入					○		
	セキショウ	A	導入					○	○	○
	コナギ	A	導入					○		
	ヒルムシロ属の一種	SR or R	導入					○	○	○
	ウキヤガラ	R	導入		NT		橋の下の鉢で確認	○	○	○
	ミゾソバ	A	導入					○	○	○
	アゼナ	A	土壌由来					○		
	ウキクサ	B	土壌由来					○	○	○
	シャジクモ	SR	発芽	VU				○	○	○
	ヘビイチゴ	B	土壌由来						○	
	アメリカタカサブロウ	外	土壌由来			○		○		
	オオカナダモ	外	遺棄・放流			○	重点対策外来種	○		

※確認記録  
○: 調査で確認  
△: 聞き取り等で確認

別表1 レア度について

カテゴリ	表記	基準	一例
スーパーレア	SR	環境省または東京都のレッドリストVU以上	オオタカ、フクロウ、ニホンカナヘビ
レア	R	環境省または東京都のレッドリストNT、DD、留意種など	アオゲラ、ウグイス、クロカナブン
良	A	武蔵野台地らしさ。雑木林や用水、田畑、湿地等に特化して生息するもの。レアではないがいてほしい生きもの。	ヒメタニシ、アオモンイトトンボ、カブトムシ、アズマヒキガエル
普通	B	普通種。都市や道ばたなどでも見られる生きもの。	オンブバッタ、キタキチョウ、ヒトスジシマカ、スズメ、ハクセキレイ
外来種	外	外来種	ガビチョウ、アメリカザリガニ、アカボシゴマダラ

別表2 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
発芽	ビオトープに導入した土壌から種子が発芽したもの
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの

別表3 希少性の表記について

表記	カテゴリ名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
.	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの